



第4回ITU-D SG会合結果概要

総務省 国際戦略局 国際政策課 おざわ りょうじ
小澤 亮二

総務省 国際戦略局 国際政策課 ざいつ なお
財津 奈央

総務省 国際戦略局 国際政策課 かわの たすく
川野 佑公

1. ITU-D Study Group1 (SG1) 会合

1.1 会合概要

第4回ITU-D SG1会合が2021年3月22日～26日の5日間オンラインで開催された。約63か国から約170名が出席し、日本から総務省国際政策課 小澤課長補佐、川野官、川角総務省参与 (SG1副議長)、松本総務省参与 (Q7/1副レポート) が出席した。

本会合は、今会期 (2018年～2021年) 最後のSG会合であり、各研究課題の最終報告書が取りまとめられた。この最終報告書は、電気通信開発諮問委員会 (Telecommunication Development Advisory Group: TDAG) を経て、世界電気通信開発会議 (World Telecommunication Development Conference 2021: WTDC-21) で報告される予定となっている。

1.2 会合結果

(1) PL会合

Regina Fleur Assoumou (コートジボアール) SG1議長のもと、初日と最終日午後にはPLが開催された。はじめにRoxanne McElvane Webber電気通信開発諮問委員会 (TDAG) 議長 (米国) とD. Bogdan-Martin電気通信開発局 (BDT) 局長から開会の挨拶があった後、2020年3月の前回会合及び同年9月の追加会合レビュー、Q6/1のレポート変更の承認、リエゾン文書 (LS) の審議、他セクターからの報告、各研究課題の年次報告、その他関係文書の審議等がなされた。今会期の提出文書統計結果について、SG1では他セクターへのリエゾン文書を含め、817件の文書が提出され、地域別では、アジア太平洋 (23%)、アメリカ (22%)、アフリカ (27%)、アラブ (12%)、ヨーロッパ (11%)、ロシア地域 (5%) と報告された。最終日のセッションでは各課題の最終報告書について報告がありTDAGへの提出が承認された。

(2) 各研究課題最終報告書

それぞれの研究課題において、最終報告書の取りまとめ状況について説明がなされた。非公式レポート会合では、ESOA (EMEA Satellite Operator's Association) から複数の研究課題に対しエディトリアル修正を含む大幅な修正提案がなされた。これは、最終報告書に関する主な寄書提出のデッドラインとされていた2020年のレポート会合よりも後の提出であることから懸念が示されつつも、マネジメントチームの善意により短期間で修正検討作業が認められた。Q1/1では、“Terrestrial High-Speed and High-Quality Broadband”の重要性についての提案がIntelからなされ、この観点からESOA提案の衛星通信に係る記載箇所を削除すべきとの主張があり、PL会合の直前までオフライン調整が続いた。Q7/1では、最終報告書のセクションタイトル “guidelines and recommendations” の “recommendations” について、ITUの他セクターとの意味合いの違いから使用すべきでない等の意見があった。TDAG議長より、これら文言の定義についてWTDC決議の該当部分が引用紹介され、結果として “recommendation” は削除された。

今会期において日本からは、次を含む21件の寄書が提出され、各研究課題の最終報告書に反映された。

- ・ローカル5Gの利用促進 (総務省)
- ・ICTを活用したマスクメロンの栽培システム ((株) 大和コンピューター)
- ・鉛蓄電池の再利用によるe-wasteの改善取組事例 (日本電池再生 (株))
- ・学校生徒向けスマートフォン安全教室 (KDDI (株))
- ・高齢者や障がい者の使用を考慮した電気通信サービスやICT機器を示すシンボルマーク (早稲田大学)

(3) 次会期課題に向けたこれまでの検討状況

各研究課題において、今会期の検討とは別に、次会期に向けた課題見直しの検討が行われ、いずれの研究課題も、次会期に検討を継続すべきとしている。



Q1/1 (ブロードバンド整備)

今会期のトピックの見直しのほか、新型コロナウイルス感染症によるブロードバンド整備への影響に関する韓国の提案が反映されている。Q5/1、Q4/1及びQ2/1との間での重複についてコメントがあった。

Q2/1 (デジタル放送)

放送とコンテンツ配信との関係や新たなサービスプロバイダの評価等の観点、前会期の議論を考慮しつつ、課題の見直しが行われている。

Q3/1 (新興テクノロジー)

OTTによるエンドユーザーやSMEへの影響評価等の観点による見直しが行われている。OTTの経済的側面に関するQ4/1との重複についてコメントがあった。

Q4/1 (コスト・経済政策)

非公式ラポータ会合では、OTTによるICTバリューチェーンへの経済的影響や、個人情報利用の経済的価値に関する中国の提案に対し、Q3/1ラポータ等から重複は避けるべきとの意見があった。Q4/1ラポータ(ロシア)からは、それまでの議論を踏まえた課題全体の更新提案がなされた。また、Q4/1ラポータからは経済的側面全般を扱うことについて提案があったが、WTDCで検討することとされた。

SG会合では、次会期における電波オークションの検討必要性について意見があったが、Q4/1ラポータからはITU-R WP1Bとの重複の観点から懸念が示された。

Q5/1 (ルーラル・遠隔地域)

新たな技術や環境等の観点による見直しのほか、農村・遠隔地域の経済社会発展を促すインターネットアプリの側面にも力点を置くべきとの中国の提案が反映された。

Q6/1 (消費者保護)

消費者保護、消費者の意識向上や関連制度の枠組み等について更なる検討が必要であるとして、課題の見直しが行われている。

Q7/1 (アクセシビリティ)

アクセシビリティに関する政策やサービス等の開発、ユニバーサルデザインの促進等の観点による見直しのほか、ロシアから課題全般についての更新提案があった。また、

高齢者の情報活用社会への参画を支援する取組みに関する中国からの提案等があったが、中国代表者不在のため審議は保留とされた。

(4) 次会期の予定

次会期(2022年~2025年)における第1回会合は2022年5月9日~13日に開催予定とされた。以降の会合についてはITUのバレンベビル建替を考慮した上で改めて決定されることとなった。

2. ITU-D Study Group2 (SG2) 会合

2.1 会合概要

第4回ITU-D SG2会合が2021年3月15日~19日の5日間オンラインで開催された。約49か国から約116名が出席し、日本から総務省国際政策課 榊田技術協力専門官、小澤課長補佐、財津専門職、中島総務省参与(Q2/2ラポータ)、永沼氏(NEC、Q3/2副ラポータ)、今中総務省参与(Q5/2副ラポータ)、中山氏(KDDI、Q1/2副ラポータ)が出席した。本会合はSG1同様、今会期(2018年~2021年)最後のSG会合であり、各研究課題の最終報告書が取りまとめられた。

2.2 会合結果

(1) PL会合

Ahmad Reza Sharafat(イラン)SG2議長のもと、初日と最終日午後にPLが開催された。はじめにD. Bogdan-Martin電気通信開発局(BDT)局長とRoxanne McElvane Webber電気通信開発諮問委員会(TDAG)議長(アメリカ)から開会の挨拶があった後、2020年3月の前会合及び同年9月の追加会合レビュー、リエゾン文書(LS)の審議、他セクターからの報告、各研究課題の年次報告、その他関係文書の審議等がなされた。今会期の提出文書統計結果について、SG2では他セクターへのリエゾン文書を含め、817件の文書が提出され、地域別では、アジア太平洋(34%)、アメリカ(14%)、アフリカ(22%)、アラブ(9%)、ヨーロッパ(17%)、ロシア地域(4%)と報告された。最終日のセッションでは各課題の最終報告書について報告がありTDAGへの提出が承認された。

(2) 各課題最終報告書

それぞれの研究課題において、最終報告書の取りまとめ状況について説明がなされた。SG2においてもESOAから



複数の研究課題に対しエディトリアル修正を含む大幅な修正提案があったが、修正作業が着々と進められた。Q3/2（サイバーセキュリティ）では、障がい者等の安全確保の配慮についての言及に関し、Q7/1（アクセシビリティ）と相互参照することが確認された。

今会期において日本からは、次を含む39件の寄書が提出され、各研究課題の最終報告書に反映された。

- ・ドローンを活用した松枯れ状態把握のための画像撮影/画像解析技術（信州大学）
- ・持続可能スマート社会の事例（塩尻市）
- ・チリの学校給食プログラムへの指紋認証技術活用（NEC）
- ・ICTを活用した遠隔地のための妊婦の健康管理（東海大学、メロディ・インターナショナル（株））
- ・ICTアクセシビリティに関連するサイバーセキュリティの課題（慶應義塾大学）
- ・災害時対策のための防災チャットボット（SOCDA）に関する事例（NICT）

(3) 次会期課題検討状況

SG1と同様に、各研究課題において、次会期に向けた課題見直しの検討が行われ、いずれの研究課題も、次会期に検討を継続すべきとしている。

・ Q1/2（スマート社会）

世界における経済のデジタル化を踏まえ、スマート社会のベースとなるインフラ等の観点による見直しが行われている。韓国から、パンデミックへの都市対応能力の開発等の観点から提案があったが、セキュリティについてはQ3/2との重複を避けるべきとの意見があった。

・ Q2/2（e-Health）

遠隔医療の制度化等について一定の進捗はありながらも、医療資源が不足している途上国や新型コロナウイルス感染症への対応におけるe-Healthの必要性を踏まえ見直しが行われている。

・ Q3/2（サイバーセキュリティ）

サイバーセキュリティはすべての技術に係る問題であり、すべての振興技術にも適用されるものとして、本課題の基本的な枠組みは維持する必要があるとの意見があった。

・ Q4/2（適合性・相互接続性）

増加する端末に対する限られたリソースでの管理や、適合性に起因し増加するコストのカバー等の観点による見直しが行われている。

・ Q5/2（災害対策）

ICTを活用した災害への対応と回復に焦点を当てて見直しが行われている。中国から新型コロナウイルス感染症への対応についての提案があり、Q5/2ラポータからは既に言及しているとのコメントがあった一方、本課題で扱うべきとの意見もあった。

・ Q6/2（環境）

e-wasteや気候変動のほか、自然災害への対応の観点も踏まえた見直しが行われ、wasteはe-wasteに限るべきとの意見があった。また、スペースデブリの追加についての提案があった。

・ Q7/2（人体ばく露）

本研究課題は次会期も継続すべきとし、専門家等とのワークショップ開催や、5Gと新型コロナウイルス感染症との関係など根拠のない懸念への対応等の観点から課題の見直しが行われた。動植物への影響の考慮についての意見がなされた。

(4) 次会期の予定

次会期の第1回会合については、2022年5月16日～20日に開催予定とされ、以降の会合日程についてはSG1と同様に未定となった。

3. ITU-D Study Group合同会合

3.1 会合概要

2021年3月31日～4月1日の2日間、SG合同会合がオンラインで開催された。約130か国から約170名が出席し、日本から総務省国際政策課 小澤課長補佐、財津専門職、川野官、川角総務省参与（SG1副議長）、松本総務省参与（Q7/1副ラポータ）、中島総務省参与（Q2/2ラポータ）、今中総務省参与（Q5/2副ラポータ）、中山氏（KDDI、Q1/2副ラポータ）が出席した。本会合では、WTDC決議の修正や次会期の研究課題等について議論された。



3.2 会合結果

(1) WTDC決議の修正

決議1（電気通信開発セクタにおける手順ルール）の修正について議論が行われた。主に、セクション3（SG及び関連グループ）における「3 SG及び関連グループの明確化」（ITU-Dにおけるワーキングパーティの是非）、「4 SG議長及び副議長」（根拠、任務等）、「5 レポート及び副レポート」（役職要件、不参加の場合の対処）についての議論が行われ、コンセンサスが得られていない箇所については保留とし、後に開催予定のTDAG Working Group on WTDC Resolutions, Declaration and Thematic Priorities (TDAG-WG-RDTP) 等で議論を継続することとされた。

(2) 次会期の研究課題

次会期の研究課題については、これまでSGレポート会合（2020年9月～10月）、SG非公式レポート会合（2021年3月）及び上記のSG会合等において各研究課題別に議論が行われているところ、SG1副議長及びSG2副議長から各研究課

題におけるこれまでの検討状況について説明があった。その後、これまでの寄書提案を踏まえ決議2（研究委員会の設立）を修正した基本的考え方の素案を基に議論が行われた。

本会合では、主にWTDCのテーマ優先順位とSGテーマの整合性に着眼して議論が行われ、コンセンサスの得られていない箇所とともに、各研究課題の設定等の詳細については、後のTDAG-WG-RDTP等で議論を継続することとされた。

4. 今後の予定

WTDC-21等開催スケジュールの見直しが議論されているが、2021年4月1日現在での予定は次のとおり。

- ・ TDAG-WG-RDTP：2021年4月9日（オンライン開催）
- ・ TDAG：2021年5月24日～28日（オンライン開催）
- ・ 地域準備会合：WTDCまでに複数回開催予定^{*1}
- ・ WTDC-21：2021年11月8日～19日（エチオピア・アディスアベバ）^{*2}

*1 地域準備会合の開催

－APT-WTDC準備会合：2021年5月6日～11日（その後、延期）、8月30日～9月3日

－WTDC-IRM：2021年5月12日～14日（その後、延期）、9月16日～17日

*2 その後、2022年6月への延期を検討。